

データ活用し物流の効率性向上へ

■成田空港、輸入 TDMS で「見える化」

成田国際空港会社（NAA）は、11月に導入した輸入トラックドックマネジメントシステム（輸入 TDMS）を活用して、トラック待機時間短縮に取り組んでいる。併せて、そこで得られたデータをもとに関係事業者と議論、検証。時間当たりの貨物引き取り能力の向上、オペレーションの曜日・時間帯の「平準化」など、物流の効率性向上を目指す。コロナ禍で航空貨物の重要性が改めて認識され、トラックドライバーの2024年問題で物流に焦点があたるなか、輸入 TDMS 導入を新たな機会として全体最適につなげる方針だ。

輸入 TDMS は11月1日に運用が開始された。導入直後の連休明け11月5日に貨物の引き取りが集中し、同8日までの期間を中心に一部で貨物の引き渡しに遅れが発生したが、徐々に改善が図られた。現在、曜日・時間帯によって繁忙にばらつきがあるものの、輸入 TDMS 導入当初のような遅れは解消された。NAA 営業部門貨物営業部はシステム運用について「長期的に見ていく必要がある」と慎重に動向を注視する考えを示すと同時に「荷主を含めて関係者間でデータをもとに議論、検証できる基盤を構築できたことは大きい」としている。

時間当たりの貨物引き取り能力の向上など、オペレーションのさらなる効率化に向けた施策について関係者間で検証する方針で、「空港管理者として将来に向けた一つのプラットフォームをまずは構築できた。まだまだ課題は残されており、システムを有効活用していくためにブラッシュアップすることが重要だ」と強調する。すでにトラックの運行管理者の視認性を高めるための画面作成など改修に着手している事例もあるという。

システム導入による貨物地区構内の交通の整流化も重要な要素だ。先行して導入された輸出 TDMS に加えて、今回稼働した輸入 TDMS を軌道に乗せることで「何より貨物地区で働いている方々の安全をしっかりと確保できる環境をつくるのが非常に大



成田空港で物流効率化に向けた取り組みが進められている（写真は北部貨物地区）

切だ」（NAA 貨物営業部）。北部貨物地区に続いて南部貨物地区でのシステム導入に向けて現在、調整を進めている。

成田空港ではかねて、輸入貨物の引き取りにあたってトラックが長時間待機することが常態化してきた。さらに2024年問題でトラックドライバーの時間外就労規制が厳格化。空港での待機時間削減のための施策が喫緊の課題となった。千葉県トラック協会の要請を受ける形で、成田空港の上屋事業者やフォワーダー、通関業者、トラック協会で構成される「2024年問題対策協議会」（会長・NAA 宇野茂執行役員営業部門貨物営業部長）が発足した。

協議会はシステム導入によって混雑状況や引き取り時間を可視化できる仕組みの導入、実際に空港に貨物を引き取りに来るトラックドライバー自身が引き取り時間を予約できる仕組みが必要であるとの認識を共有。輸入 TDMS の導入に至った。

輸入 TDMS の運用方法は、まず上屋会社のシステムでフォワーダー・通関業者・運送事業者が引き取り予定

の貨物情報を入力（搬出予約）。運送事業者・ドライバーが引き取りに来る車両・ドライバーの情報を入力（来場登録）する。これら作業を経て、NAA のシステム（Logipull）上で上屋事業者が、引き取りに来る車両が向かうべき上屋を登録（上屋側登録作業）。運送事業者・ドライバーは貨物を引き取る時間帯（スロット）を予約（引き取り時間予約＜スロット予約＞）する。トラック待機場入口で車番認証、登録車両の空港到着の確認（車番認証＜自動＞）が行われ、上屋バースの割り当て・ドライバーの携帯への呼び出し（トラック呼び出し）に至るという工程だ。フォワーダーや通関業者が上屋会社のシステム上で搬出をかけたから、関係データがNAAの予約システム（Logipull）に反映される方式を採用している。

成田空港では北部貨物地区に面した区画で11月1日に第8貨物ビルが全面稼働した。10月1日には第8貨物ビル近郊に整備された「北部貨物ゲート」がオープン。北部貨物ゲートでは10月23日に輸出用、11月1日に輸入用の車番認証カメラが稼働した。